

晩生菊2~3月咲電照抑制栽培におけるさし芽時期改善に関する研究

木村喜久夫・笠井宣弘

この実験は晩生菊2~3月咲電照菊の9月さし芽の適否についておこなった。そしてその結果については次のとおりである。

1. ほとんどの品種は電照打切までは茎長において正常に成育し、ロゼット化は電照中はあられず、電照打切後にあらわれた。
2. ブラインド、ロゼット化は秋菊系統より寒菊系統に多く認められ、9月さし芽の方法には秋菊系統が安全で望ましい。
3. この方法によって作られた切花と、慣行方法栽培によるものとの差はほとんど認められなかった。